

学校教育目標		心身ともに健康で、たくましく生きる生徒の育成			重点目標	・確かな学力を育成する。(基礎基本の学習内容の確実な定着) ・健全な社会性の育成に努める。(規範意識を育む)			
重点目標	具体的方策	評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
		取組指標・成果指標	方法	評価	結果(課題)	評価	コメント	次年度における改善策(案)	
確 な 目 学 標 に 対 す る 評 価	教育課程の 編成・実施・ 評価	教科の重点と達成の 手だての明確化	教科経営案で、確かな学力に関しての目指す生徒像や それに対応する手だてが明確となっている。	教科経営案	4	各教科で指導の重点を設定して、基礎 基本の定着に向けて取り組む事が日常 的に出来た。(小テスト・補充学習)	A	豆テストをして慣れていくこ とは良いことで、緊張感を持っ てやっていくことは良い。 言語活動は社会人でも面接で も必要な事だから、しっかり取 り組んで欲しい。 評価は生徒の意欲を損なわな いよう、適切な取組を行って欲 しい。	・新学習指導要領改訂のポイントをチェ ックし、確実な実施を図る。 ・小テストなどの基礎基本の定着に向け た取組は継続していく。 ・生徒による学習評価は継続し、授業改 善に活用する。
		指導の共通実践項目 への取り組み	実践8項目及び、「めあてとまとめのある授業」「学習 規律のある授業」に取り組む。	生徒アンケート 教師アンケート	3	実践8項目及び「学習規律のある授業」 は出来つつあるが、「めあてとまとめの ある授業」はさらに継続した取組が必要 である。	B		
		工夫された授業の 実施	教科経営案に基づき、工夫のある授業を行い、授業の ねらいと結びついた言語活動を取り入れた授業を行う。	教師アンケート 保護者アンケート 生徒アンケート	3	日常の授業における授業改善の工夫は 行われている。今後、言語活動を意識 した指導過程をより多く取り入れてい くべきである。	B		
		評価の工夫	評価の工夫を行い、評価の結果を指導に生かしている。 生徒による学習評価を実施する。	教師アンケート	3	評価方法の共通理解に努め、公正な評 価が出来ている。また、生徒による学 習評価を授業改善に活かしている。	B		
		年間授業時数 (980 時間)の確保	すべての教科領域等で基準時数以上を確保する。各教 科年間指導計画の確実な実施を行う。	教育課程調査	4	授業実施時間を管理・チェックし、全教 科・領域で基準時数をクリアすること ができた。	A		
評 価	指導体制や 組織の工夫	少人数・TT (700 時間)の確保	基準時数以上を実施するとともに、配当された教科(数 学)で少人数、習熟度別、課題別など弾力ある学習集 団を編成し、授業する。	教育課程調査	3	国数英を中心に TT を全学級で実施で きたが、習熟度別など弾力ある学習集 団編成による少人数授業は十分には出 来なかった。	B	努力をしてあるが継続的に取 り組んでもらう。小学校にも協 力して算数に力を入れて取り組 んでもらう。	・少人数、TT 授業など(数学を中心とし て)個に応じた学習指導の更なる充実 を目指して取り組む。
	指導力の 向上	授業研究	主題に基づいた全体授業研究会を年2回、その他、全 員公開授業の期間を設定し、全員授業公開する。	総括評価	4	講師招聘による主題に基づいた年2回 の全体授業研究会及び、13人全員の授業 公開は実施出来た。今後、指導案審議や 授業整理会の内容の充実を図るべきで ある。	A	研究授業の時の生徒の反応は どうだったのか気になる。 生徒も参観者が多いときには 緊張感があって良いことだ。	・更なる授業改善や指導力向上をめざし、 個に応じた研修会への参加を奨励する。
	個人研修	専門研修等、個人のニーズに合わせた研修会に派遣す るとともに、必要に応じて復命の機会を設け、成果の 共有を図る。	総括評価 教師アンケート	3	専門研修や課題研修等に延べ11名参 加した。しかしながら、その研修内容 の十分な還元までは至っていない。	B			
学力等の 実態 評価		前年度の市平均差よりポイントアップする。 保護者の評価におけるポイントを向上させる。	標準学力テスト 学力実態調査 保護者アンケート	2	1・2年とも対市平均よりポイントは 低く、3年は平均的である。保護者の 学校に対する満足度はアップしたが、 わかりやすい授業実践の要望は大きい。	A	校内掲示をして、常時学習 する機会を作ってあげたら良い のではないかな。		
健 全 な 社 会 性	規範意識の 育成	非行防止学習 (特別)	1年「万引き防止」2年「占有離脱物横領防止」3年 「性の逸脱行動防止」、全学年「薬物乱用防止」の授業 を、体験活動、道徳、学級活動の関連授業として効果 的に実施する。	教育課程調査	4	指導計画に基づき、各学年とも資料を 活用し、実施できた。体験活動・道徳 ・学級活動の関連においては、さらに 改善を図る。	A	一時から比べればとても良い 状況だと思う。 親も一緒に学ぶ姿勢があれば 道徳性も身につく子どもも良 くなる。力を与えてあげれば更 に生徒は成長するだろう。 総合学習の発表は特に楽しみ な授業参観の一つである。	・基本的には、これまでの取り組み(体 験活動、あいさつ運動等)を継続する。 ・親子のふれあいの場を設定し、とも に学び合える環境作りをし、規範意識や コミュニケーション能力の向上を図る。
		道徳の重点価値項目 への取り組み	「望ましい生活習慣」「集団生活の向上」「マナー」に ついて重点配分した道徳の授業を実施する。	教育課程調査	3	学年ごとに工夫しながら計画通り実施 できた。	A		
		体験活動の充実	1年「福祉体験学習」2年「職場体験学習」3年「保 育体験学習」を計画・実施し、まとめの発表会を行う。 校外活動の事前指導を徹底する。	教育課程調査 保護者アンケート 生徒アンケート	4	各学年とも計画通りに実施し、その成 果を保護者へ発表できた。	A		
		生徒会活動の充実	年間を通した「あいさつ運動」「清掃指導」等で適切 に指導する。 生徒主体の学校行事の立案及び運営を行う。	教師アンケート 保護者アンケート 教生アンケート	4	あいさつ運動は定着している。体育会 や合唱発表会等で生徒会中心の取組が できてきた。	A		
性	社会性の 実態 評価		生徒の自己評価におけるポイントを向上させる。 保護者の評価におけるポイントを向上させる。 不登校率、いじめの発生件数を減少させる。	生活アンケート 保護者アンケート 総括評価 (月例報告)	3	規範意識向上のポイントはアップした。 問題行動は減少したが、不登校生徒数 は増加傾向にある。	C	不登校生徒の数は多い学校は どれくらいいるのか。取組は良 く行われているのではないかな。	